

【学芸員お薦めの一品】

国際交流展「^{うみやま}海山に宿る神々～^{さいし}日韓の祭祀遺跡～」

2018（平成30）年10月6日～12月2日

企画展の開催期間中、週替わりでお薦めの展示品を紹介します。

No.7 えくぼのある女神さま

^{たからほのみね}高千穂峰の東麓に鎮座する^{さの}狭野神社と^{きりしまひがし}霧島東神社（いずれも^{たかはるちよう}高原町）にはそれぞれ「^{さのかぐら}狭野神楽」「^{はらいかわかぐら}祓川神楽」が伝承されています。これら二つの神楽は旧^{さつま}薩摩藩領の^{かんめ}神舞（神楽）の様式をよく伝え、霧島信仰を反映した曲目が含まれているなどの重要性が認められ、平成22年（2010）に「高原の神舞」として国の重要無形民俗文化財に指定されました。狭野神楽でかつて使用されていた旧面の中には、中世の^{さるがくのう}猿楽能の仮面が神楽に取り込まれたと思わせるものが含まれていますが、今回の展示ではその貴重な旧面をお借りして展示しています。古い能面と共通する特徴が随所に見られるそうですが、分かりやすいのは、女面の頬にえくぼを刻む点です。これらの旧面は神社の本殿に保管されており通常は見ることはできません。このチャンスにぜひご覧ください。



狭野神楽面 狭野神社所蔵

※高原町指定有形文化財

【参考文献】高原町教育委員会 2000 『高原町祓川・狭野の神舞(神事)』高原町文化財調査報告書第7集